

●論壇

自動車行政における今後の課題

梶原 清*

Future Ministry of Transport Policies and Controls on Automobiles

Kiyoshi KAJIWARA*

わが国の自動車保有台数は、昭和53年12月末現在で3,500万台になった。ところが、その97.3%が自家用車で、営業用車は僅か2.7%に過ぎない。この営業用車の自動車総数に対する割合は、自家用車の激増に伴って、昭和30年の12%から昭和40年の6%、さらに昭和50年の3%と低下し続けて来ている。

このような状況のもとで、自動車行政において重要な課題の一つになっているのが、公共輸送の維持整備である。わが国のバス事業は、地方といわず都市といわず、自家用車の増加と過疎過密現象の進展のために、この10数年のあいだ衰退の一途をたどっている。これの対策として、経営の合理化、運賃の適正化、経営環境の改善、国および地方公共団体による助成などの諸施策を積極的に進めてきており、例えば、ワンマン化などによる経営合理化努力によって、バス事業の従業員総数は、昭和40年の24万人が最近の16万人と大幅な減少をみている。

大都市は人口は多いが、交通渋滞の激化が都市バスの悩みの種である。そのため、バス専用レーンの設定など経営環境の改善が極めて重要であり、同時に、輸送サービス施設の整備を図り、バスを利用しやすく魅力のあるものに仕立てていくことが大切である。従来とも屋根付バス停施設の整備、冷房付・低床・広ドア車両の導入などの努力を積み重ねているが、昭和54年度からはバス接近予告システム、地下鉄とバスの乗継ターミナルの整備に取り組むことになり、都市バス対策の一步前進をみることになった。

他方、地方バスに対しては今後どのように取り組むべきか。私は、地方バス維持費補助制度の抜本的な拡充とあわせて、各地のバス会社がそれぞれのテリトリーで、小型バスを使って雑貨商的なキメ細かな輸送サービスを提供する系列組織を作るのも、一つの策ではないかと考えている。

いずれにしても、わが国は資源に乏しく、国土面積も僅か37万平方キロに過ぎない。省エネルギー、限りある道路の効率的使用、こうした見地からも、効率的な公共輸送を維持し発達させていくことが極めて大切であり、まさに全国的な課題であると思う。

第2は輸送秩序の問題である。最近、トラックの過積載問題が大きく持ち上っているが、運賃ダンピングを、イージーで違法な手段によって採算合わせして来たのが、この過積載問題である。何しろ、全国には32,000にのぼるトラック事業者があり、しかもその90数%が中小零細規模の事業者であるため、荷主に対する経済的な立場が弱い。それに、免許を受けないで運送営業を行なっている白トラも遺憾ながら少なくない。こうしたことが、運賃ダンピング、過積載の大きな要因となって、トラック輸送秩序の改善がトラック業界の古くして新しい課題となっている。交通安全の確保の見地から定積載を遵守すべきことは言をまたないところであり、今後は秩序正しい効率的な物流体系をつくりあげていくために、地道で根強い努力が必要であると思う。

その他、大型トラックの左折時における事故の問題、大型トラックの深夜走行に伴う騒音公害問題、いわゆるレンタカー・バスのあり方の問題、交通事故被害者救済対策など多くの課題をかかえており、今後とも関係各位の一層のご理解とご協力をお願いしたい。

*運輸省自動車局長
Director General, Road Transport Bureau,
Ministry of Transport
原稿受理 昭和54年4月3日